ニュース専修 ウェブ版
2005年10月号
[5面]

情報科学研究所定例研究会

院生4人が研究成果を発表

9月20日、情報科学研究所（所長＝綿貫理明教授）の定例研究会（大学院学生大会）が生田キャンパスで行われた。

今回は大学院経営学研究科経営学専攻の4人が日ごろの研究の成果を報告し、出席した先生方から今後に向け、アドバイスを受けていた。発表者とテーマは次の通り。

院生の発表を受け、先生方がアドバイス（永田さん＝右と、魚田勝臣教授＝左から2人目）

▽高橋正憲さん「協調学習における自主的発言促進システムの設計」
▽永田奈央美さん「導入教育における問題解決型学習モデルの構築」
▽田中裕美さん「ネットワーク型待ち行列システムのシミュレータの開発」
▽山本崇さん「普通高校における情報教育の現状と課題」

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

ニュース専修 ウェブ版
2005年10月号
[5面]

≪緑地帯≫

自立の難しさ

マラソンの高橋尚子選手の前向きさが好きで、彼女のニュースには敏感になる。長年指導を受け金メダル獲得に至った小出監督からの独立は以前話題になったが、その後スタッフを集め、自分のチームを立ち上げた様子だ。報道によると、自分が中心となり、スタッフと練習から作り上げていく。こうしなさいと言ってくれる監督はもういない。新チームで再始動後レースに数回出場したようだが、苦戦している様子が伝わってくる。

誰しもこれまで頼ってきた師を離れる時は一人でやっていけるか不安になる。学生諸君も大学卒業後は同じような思いをするに違いない。これまで助け舟を出してくれた先生方やご両親に頼れる機会は少なくなる。もちろん社会では周囲との協力は不可欠だが、人生において困難が発生した際には、自分で解決策を考え、行動しなくてはならない。

師を離れて自分の考えで自立の一歩を踏み出すということは、踏み出した直後はそれまでのようにうまくいかなかったとしても、人間としての大きな成長の証ではないだろうか。これまでの経験を生かし、自分で方法を考え進んでいく。高橋選手も今その苦しい時なのではないだろうか。彼女のような華々しいキャリアを築いてきた人にさえその試練は訪れる。

あと半年で卒業予定の4年次生、これから就職活動に入る3年次生、まだまだ大学生活満喫中の1・2年次生も、自分の人生をどう切り開くか、よく考え羽ばたいてほしい。そして困難にぶつかっても負けないたくましさを身につけてほしい。

（学生部）

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

ニュース専修 ウェブ版

2005年10月号

[5面]

≪留学生からのメール -6-≫

フルビエールの丘に住む

リュミエール・リヨン第2大学＜仏＞に長期留学中の島守沙知さん（経済4）

私が今、長期交換留学で滞在しているリヨンは、パリに次ぐフランス第二の商業都市です。

この街には、ローヌ川とソーヌ川という二つの大河が流れ、二つの丘があります。その丘の一つ、フルビエールの丘は、世界遺産にも指定されており、ルネッサンス期の街並み、ローマ時代の遺跡などが、今も残っています。

街には、ほかにも多くの歴史と魅力に溢れています。

私は、このフルビエールの丘の上にある学生寮に住んでいます。静かで学生は皆優しく、落ち着いた生活を送っています。朝と昼は、近くの教会の鐘の音が響きわたり、夜は、光に照らされた街並みを眺めることが出来るこの寮を、とても気に入っています。

今年2月にフランスに着き、初めは大学機関の語学学校へ通いました。フランス語の発音は実に難しいもので、ここで学ぶ学生は皆、上手く発音が出来ませんが、それでも各国の外国訛りでよく話します。正直、フランス語がさらに難しく感じたものでした。

夏休みの間は、出会った友人の招きで、国内を北から南へと旅行。行く先々で新たな出会いと発見があり、多くの方々と素敵な時間を過ごすことが出来ました。

9月に入って、大学が始まりました。カリキュラムも講義スタイルも、もちろん日本と違い、講義プリントなどが配られることは、一切ありません。学生は皆、教授の話すこと全てをノートにとらなくてはならず、教授も学生も皆真剣で、学生の学ぶ姿勢、教授の講義への熱意、フランスの大学の姿を知ることが出来ました。

来年1月まで、残り数カ月の滞在期間ですが、これからもたくさんの体験、多くのものを得て帰国したいと思います。

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

ニュース専修 ウェブ版
2005年10月号
[5面]

“日本理解”へ12週間のプログラム

「秋期日本語・日本事情」スタート

三曲研究会の奏でる調べに耳を傾ける参加者

日本語や日本文化の学習を希望する留学生のための「秋期日本語・日本事情プログラムおよび日本理解プログラム（BCLプログラム）」がスタートした。

今プログラムは、国際交流協定校の学生を対象としたBCLプログラムの参加者など28人と特別聴講生ら10人が、日本語・日本事情プログラムも合わせて受講。短期留学生たちは12月10日までの12週間、国際研修館に滞在し、勉学・研修に励む。

9月20日には、開講式と歓迎会が生田キャンパスで催された。大林守国際交流センター長をはじめ教職員、日本人学生多数も出席。三曲研究会が歓迎の演奏を披露するなど、会は終始和やかなムードで、短期留学生たちを温かく迎えていた。

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

ニュース専修 ウェブ版
2005年10月号
[5面]

国際交流会と多摩区の市民団体が主催

プレ・ハロウィンパーティー開く

10月1日、国際交流会(諸星源代表・経済3)と多摩区の市民団体「世界の広場」が主催する「プレ・ハロウィンパーティー」(田村織恵実行委員長・文3)が生田キャンパスで開催された。日本語日本事情プログラムで研修中の短期留学生や、多くの市民が参加し、仮装コンテストやゲーム、ダンスなどを通じて交流を深めた。

短期留学生も参加してにぎやかに…
(120年記念館のキャビンで)

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

ニュース専修 ウェブ版
2005年10月号
[5面]

≪学部発信 -文学部-≫

歴史を鏡として ― 学部創立40周年の取り組み

日本社会の構造的変化にともない、大学のあり方が問われ、その新しい方向を模索するさまざまな試みがなされている。

文学部では学科・専攻の再編やカリキュラムの改革をはじめとして、日本語学専攻の湖南大学との組織間提携、日本文学文化専攻によるイギリス・イタリアなどとの大学を結ぶ「ネット授業」や日本の古典籍をシンクロコンテンツにのせて世界に発信する試みがなされている。

英語英米文学科では、今年「Anglo-Saxon語の継承と変容」がオープン・リサーチ・センター整備事業（ORC）に選定され、「高校生のための英語学習法」講座では基礎的な英語教育に対する踏み込んだ提言が注目されている。

人文学科の歴史学専攻はORCの「フランス革命と日本・アジアの近代化」が3年目を迎え、社会学専攻では社会調査士の資格課程が完成年度を迎え、来春20数人の社会調査士が巣立つことになっている。

心理学科でもPDAによる授業改善とカリキュラムの改革が鋭意すすめられている。“百花繚乱”ともいえるこうした試みを集約し、あらたな発展にどう結びつけていくのか、文学部も大きな岐路に立たされているように思われる。もちろん「新学部」構想とも無関係ではありえない。しかしこうした転換期には、いたずらに右顧左眄することなく、原点に立ち返り、歴史を鏡として「来し方行く末」を見つめ直すことが肝要と考えられる。

専修大学文学部は、来年、創立40周年を迎える。昭和41年（1966）1月25日に文部省（現文部科学省）から設立認可を受け、国文学科・英米文学科・人文学科の3学科（定員各100人）を編成し、4月には竣工まもない4号館で最初の授業が始まった。学生を迎えた教授陣は47人のそうそうたるメンバーであった。そこには草創期とはいえ、すでに文学部の特色となった少人数教育・手作り教育の原点をうかがうことができる。

最初の入学試験には、当時としてはめずらしい指定校推薦が実施された。翌年には、コミュニケーションを重視し、LL教室が旧2号館に設けられ、第1回の「夏季大学国文学会公開講座」（56年の第15回より「専修大学夏季公開講座」に改称）が始まった。生涯教育などという言葉すらない時代の先駆的試みであった。43年には『専修人文論集』・『専修史学』が創刊され、待望の生田図書館が竣工したのもこの年である。430人の最初の卒業生を世に送り出した45年には、大学院修士課程の申請がなされ、『長秋詠藻』などの蜂須賀家旧蔵本が文部省の助成を得て図書館に収蔵されている。

草創期におけるこうした先人の血のにじむような努力を顧みる時、その成果を継承し、どう学部の発展に結びつけていくのかが問われているように思われる。文学部では学科長会議内に企画委員会を設置し、文学部創立40周年を記念する『人文論集』記念号の刊行や「文学部公開講座」を創立特別記念講座とするほか、文学部の所蔵する貴重書・文書やこれまでの学術的成果を世界に発信する試みに加え、学生・教員だけでなく、卒業生や他大学の文学部関係者等の参加をえて、「専修大学文学部の将来像」に関するシンポジウム等を予定している。

（矢野 建一）

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.